

県内経済は、生産活動が弱含み、個人消費は減少、ならびに倒産状況、雇用情勢の悪化などから、悪化傾向にある。また、世界的な景気後退や急激な円高などがもたらす経営環境への影響が懸念される。

1. 平成20年10月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は3ヵ月ぶりに前年を上回った。乗用車新車販売は、軽自動車は増加したが、大型、中小型乗用車がともに低迷し全体では3ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、一部に明るさが残るものの、全体として弱含みの状況となってきた。投資動向をみると、公共工事は、件数が2ヵ月連続、請負金額が4ヵ月連続で前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、改正建築基準法の影響で減少した前年の反動などから棟数、工事費予定額がともに2ヵ月連続、床面積が3ヵ月連続でいずれも前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家、分譲住宅がともに減少したが、貸家が増加し全体では2ヵ月連続で前年を上回った。倒産状況は、負債総額10百万円以上の企業倒産件数が2ヵ月連続で前月を上回り、また福島県信用保証協会の代位弁済件数ならびに金額も引き続き前年を上回るなど悪化している。雇用情勢は、新規求人倍率、有効求人倍率がともに12ヵ月連続で前年を下回るなど悪化している。

〔消費動向・基調判断 減少〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品を始めとする商品が全般的に低調に推移したものの飲食料品が好調に推移し3ヵ月ぶりに前年を上回った。しかし、既存店ベースでは7ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、軽自動車が増加したものの、大型車、主力の中小型車がともに低迷し全体では3ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、前月比0.3%低下したが、前年同月比では14ヵ月連続の上昇となった。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、DVDレコーダーがやや低調、携帯電話、パソコン、デジタルカメラ、ビデオカメラなどは低迷しており、全体では前年を下回る水準で推移した。ホームセンターは、園芸用品、ペット用品などは好調だったものの、DIY商品などが低調に推移したことから全体では前年をやや下回る水準で推移した。旅行取扱額は、個人の国内、海外旅行の縮小傾向が顕著となり方面も安・近・短の傾向が強まっている。

〔投資動向・基調判断 減少〕

公共工事は、県、市町村からの発注増により件数が2ヵ月連続、請負金額が4ヵ月連続で前年を上回ったものの累計では前年同期比で下回っており水準は低い。9月の建設着工（民間・非居住用）は、件数、工事費予定額がともに2ヵ月連続、床面積が3ヵ月連続でいずれも前年を上回った。新設住宅着工戸数は持家、分譲住宅が前年を下回ったが貸家が2ヵ月連続で増加したことから全体では2ヵ月連続で前年を上回った。足元の建築物着工は、前年の改正建築基準法の影響により落ち込んだ反動などから前年を上回ってきたが依然低い水準にある。

〔生産活動・基調判断 弱含み〕

9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、102.5（前月比+0.6%）と3ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は、106.8（前年同月比△1.5%）と2ヵ月連続で前年を下回った。また、平成20年第3四半期（7～9月）では103.7（前期比△3.6%）と再び低下した。大口電力販売量は、電気機械、非鉄金属などで増加、輸送用機械、一般機械などで減少し全体では前年同月比2.9%増となった。

〔企業倒産・基調判断 悪化〕

負債総額10百万円以上の企業倒産状況は、負債総額が2ヵ月ぶりに前年を下回ったものの、倒産件数が2ヵ月連続で前年を上回り5月と並んで本年中最も多い件数となった。福島県信用保証協会の代位弁済状況は、件数が9ヵ月連続、金額が4ヵ月連続とともに前年を大きく上回るなど倒産状況は悪化している。

〔金融動向・基調判断 低調〕

9月末の預金残高は19ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、前年同月比+0.3%と3ヵ月連続で前年を上回ったが小幅な増加に止まっている。

〔雇用動向・基調判断 悪化〕

新規求人倍率、有効求人倍率（原数値）がともに12ヵ月連続で前年を下回った。また、季節調整値でみた新規求人倍率は0.89倍（平成14年9月以来）、有効求人倍率は0.62倍（平成15年9月以来）と前月比ではともに僅かながら上昇したものの水準は低く雇用情勢は悪化している。

県内経済動向の概要

	項目	平成20年8月		9月		10月	
		前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比
消費動向	大型小売店販売額(全店舗)	→	→	→	↘	→	↗
	乗用車新車登録台数	↘	↘	↘	↗	↘	↗
	消費者物価指数(総合)	↗	↗	↗	→	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	→	↗	↘	→	↘
	建設着工棟数(民間・非居住用)	↗	↘	↗	↗	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↘	↗	↗	↗	↘
生産活動	鉱工業生産指数(総合) 注1	↗	↗	↗	→	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↘
企業倒産	企業倒産件数 注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額 注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↘	-	-
	貸出金	↗	↗	↗	→	-	-
雇用動向	有効求人倍率(パート含む)注3	↗	→	↗	↘	↘	→
	新規求人倍率(パート含む)注3	↗	→	↗	↗	↘	→

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

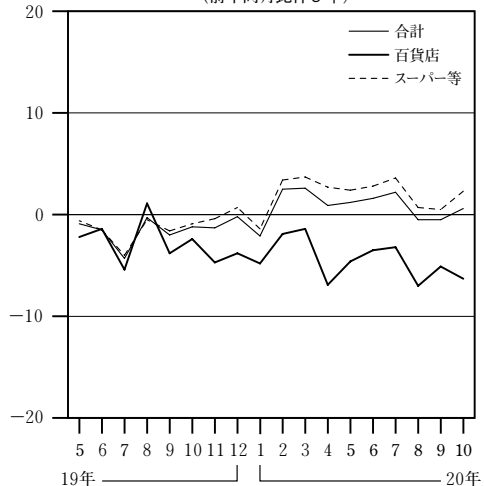
大型小売店 10月の県内大型小売店の販売額は、紳士・婦人服などの衣料品や身の回り品など全般的な商品が低調な推移となったものの飲食料品は好調で、全店舗ベースでは185億76百万円(前年同月比0.6%増)と3ヵ月ぶりに前年を上回った。一方、既存店ベースでは同1.5%減と7ヵ月連続で前年を下回った。(注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。)

業態別に内訳をみると百貨店は、飲食料品などは堅調に推移したが、主力の紳士・婦人服などの衣料品を始め身の回り品などが低調に推移し全店舗ベースで33億11百万円(同6.3%減)と既存店ベース(同6.3%減)とともに14ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、身の回り品、衣料品などが低調に推移したが主力の飲食料品の伸びに支えられ全店舗ベースで152億65百万円(同2.3%増)と9ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでは同0.2%減と3ヵ月連続で前年を下回った。

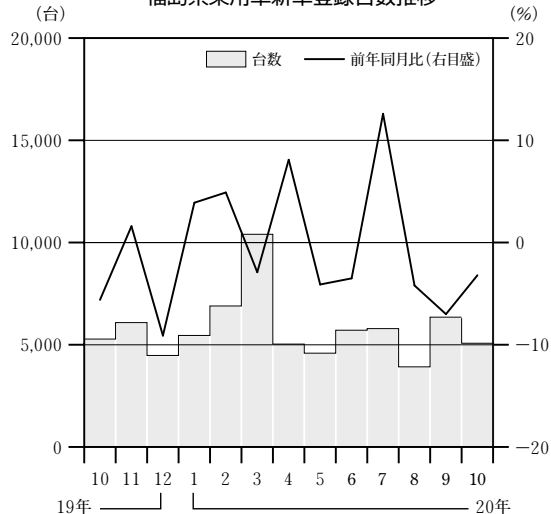
乗用車販売 10月の乗用車新車登録台数(軽乗用車含)は、合計で5,162台(前年同月比3.2%減)と3ヵ月連続で前年を下回った。車種別でみると、大型乗用車が647台(同12.8%減)、主力の中小型乗用車が2,562台(同8.8%減)と、ともに3ヵ月連続で前年を下回った。一方、軽乗用車は1,953台(同9.7%増)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

福島県大型小売店販売額(全店舗)
(前年同月比伸び率)



(資料：経済産業省)

福島県乗用車新車登録台数推移



(資料：福島県自動車販売店協会)

10月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で10,527台（前年同月比5.1%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると大型乗用車で3,092台（同2.7%減）、中小型乗用車で3,967台（同7.2%減）、軽乗用車で3,468台（同4.6%減）といずれの車種も2ヵ月ぶりに前年を下回った。

消費者物価指数 10月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、103.3（前月比△0.3%）となり、9ヵ月ぶりに前月を下回った。

一方、前年同月比では+1.9%と14ヵ月連続して上昇した。

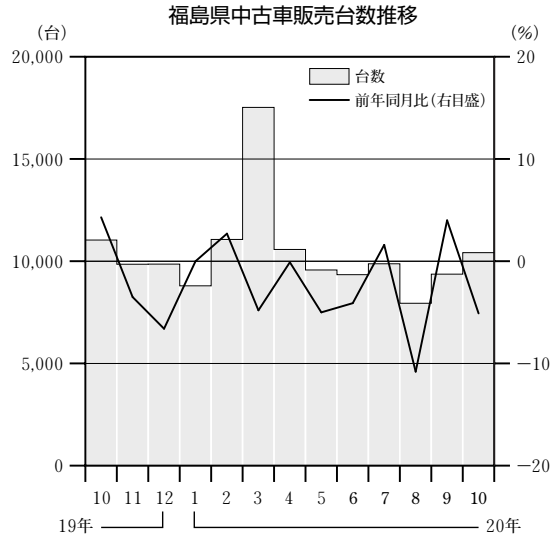
費目別の指数動向をみると、前月比上昇したのは、「住居」で100.0（前月比+0.1%）、「家具・家事用品」で97.5（同+0.9%）と、ともに3ヵ月ぶり、「被服および履物」で108.2（同+2.8%）と2ヵ月連続で、いずれも前月を上回った。一方、前月比低下したのは、「交通通信」で104.0（同△2.2%）、「教養娯楽」で98.3（同△0.1%）と、ともに2ヵ月連続、「食料」で105.2（同△0.1%）と2ヵ月ぶり、「光熱・水道」で114.1（同△1.8%）と8ヵ月ぶり、「保健医療」で98.2（同△0.3%）と3ヵ月ぶり、いずれも前月を下回った。「教育」は102.4で前月と変らなかった。

家電量販店 10月の売上状況は、薄型テレビ、DVDレコーダーがやや低調、エアコン、冷蔵庫などは低調、携帯電話、パソコン、デジタルカメラ、ビデオカメラなどは低迷しており、全体では前年を下回る水準で推移した。

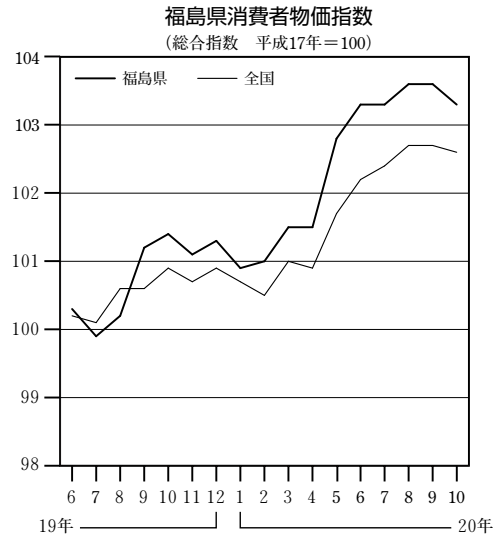
ホームセンター 10月の売上は、ペット商品、園芸用品などは好調だったものの、DIY商品や収納家具などが引き続き低調に推移したことから全体では前年をやや下回る水準で推移した。

旅行 10月の旅行取扱額実績は、個人の国内・海外旅行の需要の縮小傾向が一層顕著となり、方面も安・近・短の傾向が強まってきていることから取扱額の面で厳しい状況にある。

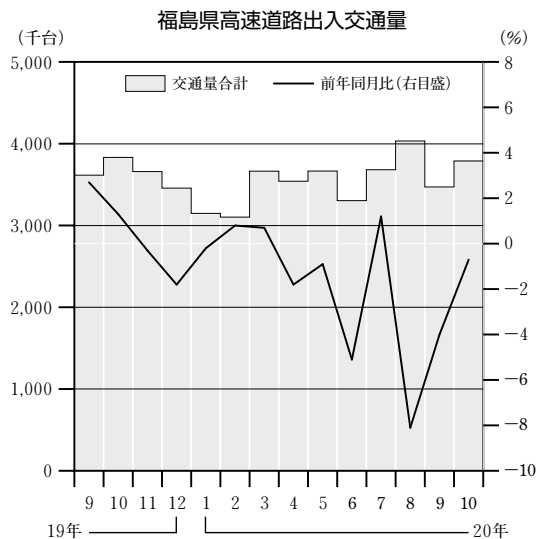
高速道路 10月の県内自動車道通過台数は3,818,157台（前年同月比0.7%減）と3ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,309,065台（同0.9%減）と7ヵ月連続、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は565,338台（同0.2%減）と3ヵ月連続、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は677,442



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

台（同1.9%減）と12ヵ月連続で、いずれも前年を下回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は266,312台（同3.2%増）と3ヵ月ぶりに前年を上回った。

福島空港 10月の福島空港国内定期路線の利用状況は、33,969人（前年同月比9.7%減）と13ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は10,018人（同4.7%増）、沖縄便は6,588人（同3.8%増）と、ともに2ヵ月連続で前年を上回った。大阪便は17,363人（同15.0%減）と10ヵ月連続で前年を下回った。一方、国際定期路線の利用状況は7,677人（同3.3%増）と4ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみるとソウル便は6,450人（同6.3%増）と9ヵ月連続で前年を上回った。上海便は1,227人（同10.1%減）と9ヵ月連続で前年を下回った。

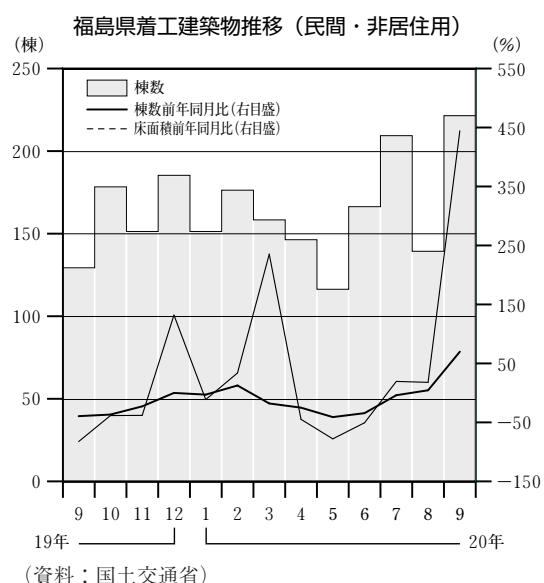
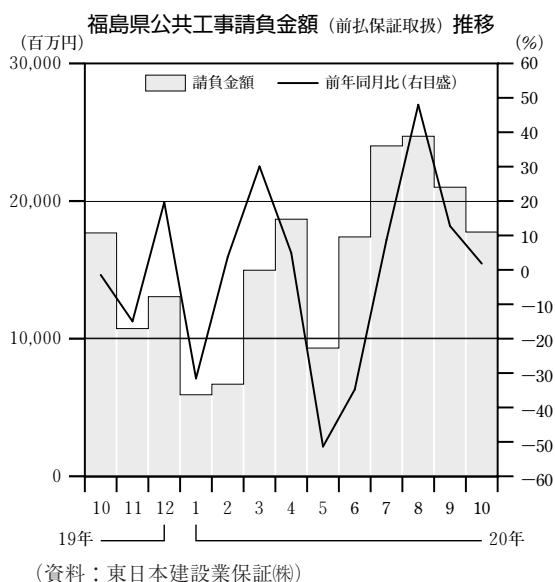
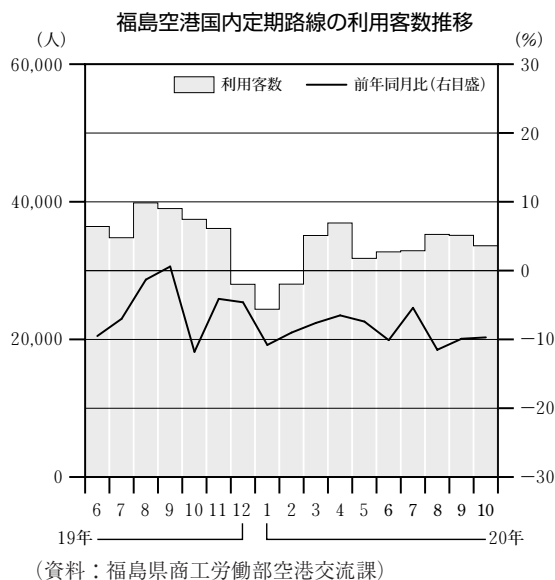
—— 投資動向 ——

公共工事 10月の公共工事前払保証取扱は、件数が790件（前年同月比29.1%増）、請負金額が178億19百万円（同0.8%増）、保証金額が67億76百万円（同0.8%減）となった。件数は県および市町村などの発注増により2ヵ月連続、請負金額は4ヵ月連続で前年を上回った。保証金額は4ヵ月ぶりに前年を下回った。

10月時点累計（1月～10月）では、件数が前年同期比243件減少し4,824件（前年同期比4.8%減）、請負金額が同57億24百万円減少し1,605億14百万円（同3.4%減）、保証金額が同26億17百万円減少し609億88百万円（同4.1%減）である。

主な発注者別の累計請負金額は、国が前年同期比31億33百万円増加し303億93百万円（同11.5%増）となっている。一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県が同123億33百万円減少し502億47百万円（同19.7%減）、市町村が同56億43百万円減少し586億50百万円（同8.8%減）となっている。

設備投資 9月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が223棟（前年同月比71.5%増）と2ヵ月連続、床面積が86,291㎡（同446.1%増）と3ヵ月連続、工事費予定額が142億18百万円（同670.2%増）と2ヵ月連続で前年の改正建築基準法の影響により落ち込んだ反動などから、いずれも前年を大幅に上回った。



10月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、813件（前年同月比13.3%減）と4ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）が182件（同12.9%減）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）が631件（同13.4%減）となり、ともに4ヵ月ぶりに前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比1件減少し27件と3ヵ月ぶりに前月を下回った。

建築物着工の先行指標である10月の建築物申請件数は、781件（同3.7%増）と5ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物は171件（同31.9%減）と4ヵ月ぶりに大きく前年を下回った。4号建物は610件（21.5%増）と5ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は、前月比6件増加し20件と3ヵ月ぶりに前月を上回った。

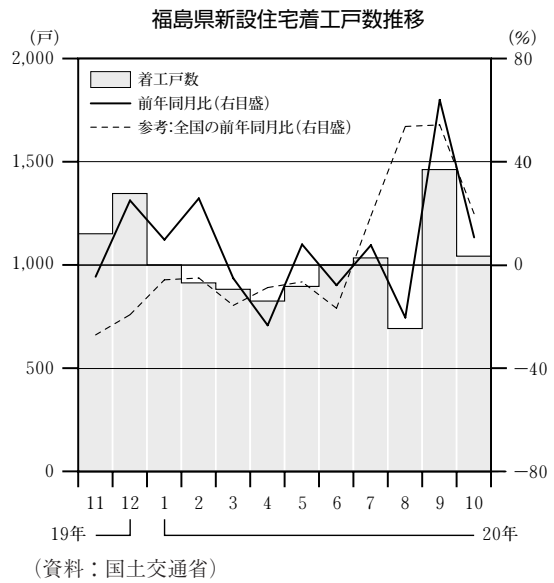
住宅建設 10月の県内新設住宅着工戸数は、1,048戸（前年同月比10.7%増）と前年が改正建築基準法の影響で落ち込んだ反動などから2ヵ月連続で前年を上回った。

主な利用関係別にみると、「持家」は526戸（前年同期比3.5%減）と2ヵ月ぶり、「分譲住宅」は19戸（同53.7%減）と大幅に減少し4ヵ月ぶりに前年を下回った。「貸家」は490戸（同36.5%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。

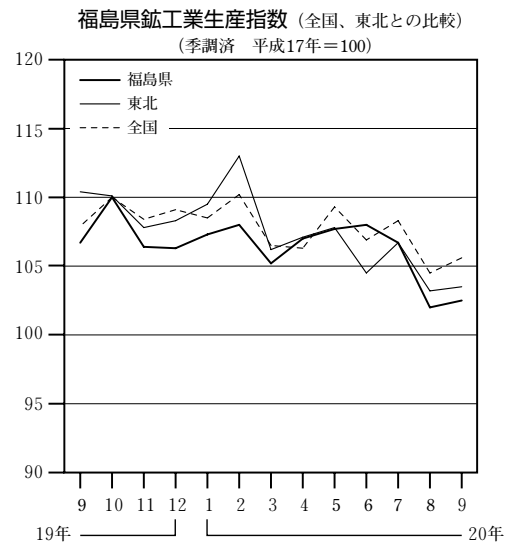
— 生産活動 —

鉱工業生産指数 9月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると102.5（前月比+0.6%）と3ヵ月ぶりに前月を上回った。原指数は、106.8（前年同月比△1.5%）と2ヵ月連続で前年を下回った。また、平成20年第3四半期（7～9月）では103.7（前期比△3.6%）と再び低下した。上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、電気機械工業で119.6（前月比+28.3%）、食料品・たばこ工業で85.8（同+14.2%）、繊維工業で72.4（同+10.4%）など13業種が上昇した。一方、情報通信機械工業で112.6（同△12.1%）、金属製品工業で87.2（同△5.1%）、非鉄金属工業で96.1（同△4.2%）、電子部品・デバイス工業で113.8（同△3.9%）となり7業種が低下した。

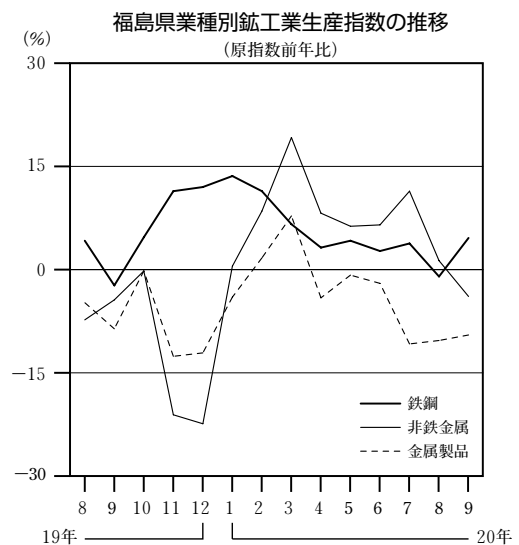
化学 10月は炭素繊維やフッ素樹脂などが好調だったものの、食品包装フィルム用合成樹脂、金



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

属代替プラスチックは前年をやや下回る生産で推移した。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）、バリウム化合物（電子部品原料）および電子材料の生産なども前年をやや下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 10月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材がともに前年を下回る水準で推移した。建機用は、海外（オーストラリア、中央アジア等）から鉱物資源用としての受注から大型は通常水準、中型・小型は需要が薄れ減産となり前年をやや下回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要およびニューヨーク、ドバイ向けなどにより引き続き安定した生産水準で推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連向けや船舶用バルブ部品向けにより前年並みの水準で推移した。

輸送用機械 10月の自動車用鋳造品の生産は、国内が一服、海外の伸びは失速し前年をやや下回る水準で推移した。

電気機械 10月の変圧器、配電盤、自動車モーター、回転機、電熱炉などの生産は前年を上回る水準で推移した。

情報通信機械 10月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東（インド、トルコ等）向けなどは安定しているが、前年が高水準だった反動減もあり前年をやや下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

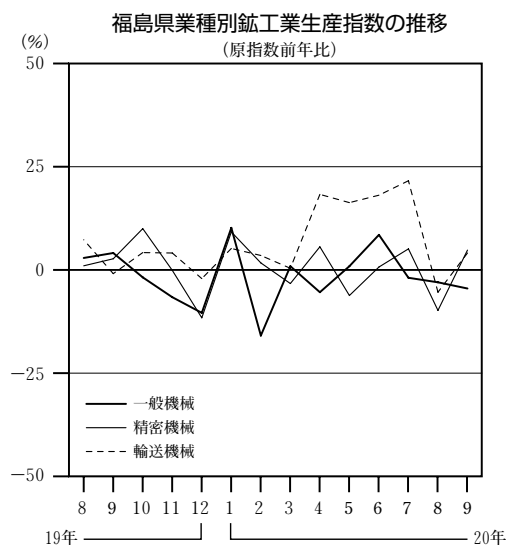
電子部品・デバイス 10月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV・ゲーム機・家電、産業機器を始め、車載品、パソコン・OA、通信向け、携帯電話向けなどが前年を下回る水準となった。

精密機械 10月の医療用内視鏡の生産は前年並みの水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは前年をやや下回る水準で推移した。

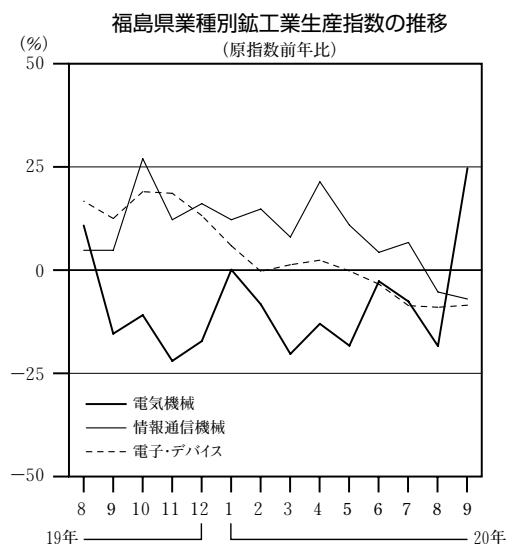
紙・紙加工品 10月の段ボールの生産は、前年をやや下回る水準で推移した。また、インクジェット紙の生産は前年を上回る水準だったものの、ノーカーボン紙、感熱紙は前年を下回る水準で推移した。

窯業・土石 10月の生コンクリート出荷量は、全体で131,844^m（前年同月比8.2%減）と12ヵ月連続で前年を下回った。

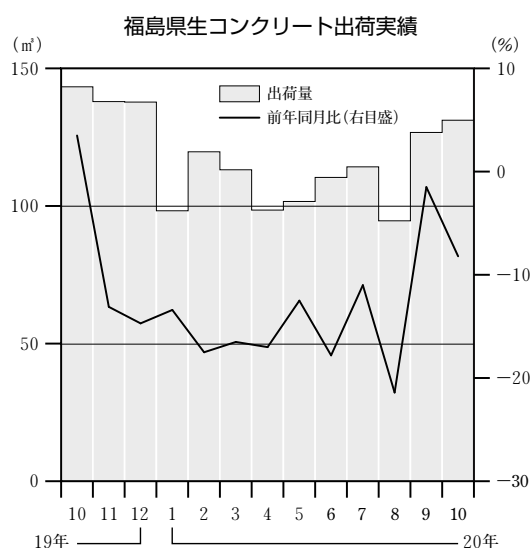
増加地区をみると、官公需では県北地区で中央高速道路工事、いわき地区で三和トンネル工事、湾岸工事などで増加した。民需ではいわき地区で



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

病院新築工事、会津地区で工場新築工事などにより増加した。

清酒 10月の清酒移出数量は、1,552kl（前年同月比2.0%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。

タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が487kl（同6.2%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は1,065kl（同5.3%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。10月時点累計（1月～10月）では、特定名称酒が前年同期比4.2%増、一般酒が同3.7%減と、特定名称酒の伸びが顕著になっている。

化合繊維物 10月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステルについても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

ニット 10月のニットの生産は、消費者の買い控え傾向の強まりから受注・生産は低調な水準で推移した。

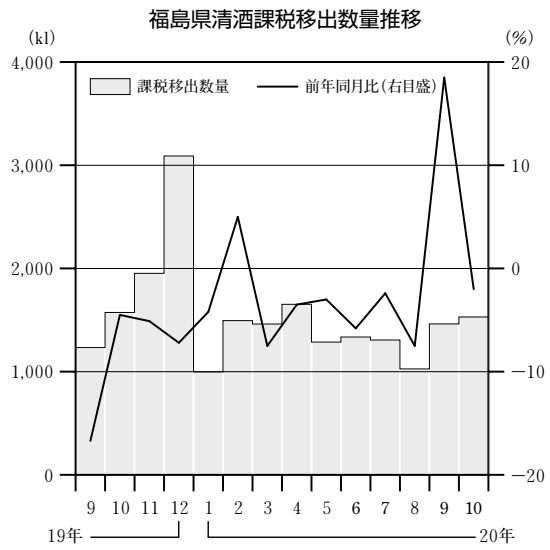
大口電力 10月の大口電力販売量は、596百万kw/h（前年同月比2.9%増）と引き続き前年を上回っているものの前年実績を下回る業種が増加傾向にある。

主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で127百万kw/h（前年同月比1.0%増）、「非鉄金属」で120百万kw/h（同23.8%増）、「化学」で63百万kw/h（同7.6%増）、「輸送用機械」で62百万kw/h（同2.1%減）、「一般機械」で31百万kw/h（同3.2%減）、「紙・パルプ」で25百万kw/h（同20.3%減）となった。

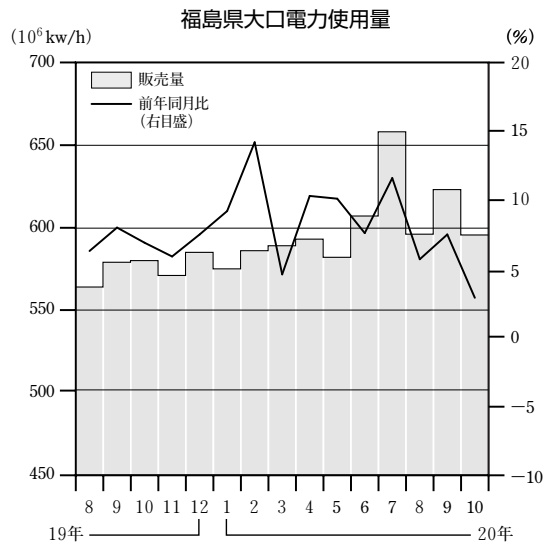
企業倒産

企業倒産 10月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、負債総額が40億41百万円（同24.3%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。一方、倒産件数は20件（前年同月比100.0%増）と2ヵ月連続で前年を上回り、5月と並んで本年中最も多い件数となった。

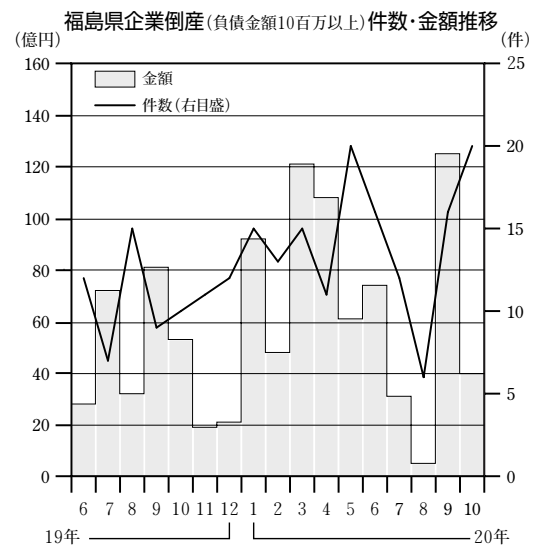
倒産主因別内訳は、受注・販売不振17件、放漫経営、経営計画の失敗、その他でそれぞれ1件となった。業種別内訳は、建設業8件、サービス業6件、小売業2件、製造業、卸売業、運輸・通信業、不動産業でそれぞれ1件となった。地区別内訳は、県南8件、会津6件、県北、浜通りでそれぞれ3件となった。



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）



（資料：帝国データバンク福島支店）

10月時点累計（1月～10月）は、倒産件数が前年同期比34件増加し144件（前年同期比30.9%増）、負債総額が同411億15百万円減少し704億87百万円（同36.8%減）となっている。負債金額10百万円以上の倒産状況は、件数が7月まで10ヵ月連続で二桁台を続け、8月は一桁台になったが、9月から再び2ヵ月連続で二桁台に乗るなど高水準である。なお、負債総額は前年同期比で下回っているが、これは昨年4月に発生した大型倒産（負債金額636億円：パチンコ店）による反動減であり、実体は依然悪化傾向にある。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の9月末の預金残高は、6兆2,534億円（前年同月比2.0%増）と19ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,133億円（同0.3%増）と小幅ながら3ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 10月の保証承諾は、件数が1,415件（前年同月比9.0%増）、保証金額が147億14百万円（同18.6%増）と、ともに9ヵ月ぶりに前年を上回った。

一方、代位弁済は、件数が140件（同105.9%増）と9ヵ月連続、金額が9億54百万円（同78.2%増）と4ヵ月連続で、ともに前年を大きく上回り悪化傾向が一段と強まってきている。

雇用動向

雇用動向 10月の新規求人数（原数値）は、10,154人（前年同月比28.4%減）と12ヵ月連続で前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、10,580件（同7.8%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。県内の雇用情勢は新規求職者の増加傾向の中で新規求人数の一層の減少から悪化傾向を強めている。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.89倍（前月比0.03_割上昇）と2ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.96倍（前年同月比0.48_割低下）と12ヵ月連続で前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.62倍（前月比0.01_割上昇）と5ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.67倍（前年同月比0.30_割低下）と12ヵ月連続で前年を下回った。

